400年続く大空の合戦――大凧・出世凧が風に乗って高々と

400年の歴史を誇る「いかざき大凧合戦」（同実行委員会主催、久保美博実行委員長）が5月5日、豊秋河原で行われました。

大凧合戦は、凧糸に「ガガリ」と呼ばれる刃物を仕込み、凧を巧みに操ることで相手の糸を切り、凧を落とす戦いです。今年は100チームが参加。大空に舞い上がる数百統の大凧や縦横無尽に凧糸を引っ張る参加者の姿が、およそ4万人の参加者を魅了しました。

また、こどもの健やかな成長を願う初節句神事には、158組（うち、町内54組）の家族が参加しました。稲本隆壽町長は「子どもたちの幸せを願っている。天高く上がる凧のように、すくすくと元気に育ってほしい」とあいさつ。神事や記念撮影などの後、出世凧揚げが行われました。出世凧が風を受けて空高く上がると、子どもを抱いて見守る家族から感嘆の声が上がっていました。

その他にも、縦14.4㍍、横12.5㍍、重さ約150㌔の大凧が空に舞う100畳大凧揚げ、大凧出世太鼓の演奏、五十崎中学校の生徒による凧合戦や凧踊りなど、さまざまな催しがあり、会場は終日にぎわっていました。

久保実行委員長は「今年はいい風が吹いて良かった。出世凧もよく上がってご家族の皆さんも喜んでいた。来年は出世凧を保護者にも揚げてもらうなど、もっと会場の人たちにも参加してもらえる楽しいイベントにしたい」と話しました。

1_五十崎中学校・男子生徒による凧合戦　2_大空へ向かって飛び立つ出世凧　3_高さ20㍍、約20秒の大浮揚を見せた100畳大凧　4_双子の名前が書かれた出世凧を揚げる家族　5_演技を終えた凧踊り保存会の皆さん。サービスで大空へジャンプ　6_豊秋橋を舞台に中学生や保護者などの凧踊りが披露された

みきゃんと「愛顔体操」を踊る子どもたち

子どもたちの元気な笑顔がいっぱい「第17回内子町こどもフェスティバル」

「第17回内子町こどもフェスティバル」（同実行委員会主催）は5月21日、内子運動公園で開かれ、親子連れなど約1,800人が集まりました。最初に前野良二実行委員長が「この祭りは大人が子どもたちにプレゼントするすてきな企画。元気な笑顔を見せて」とあいさつ。巨大迷路やお化け屋敷、はしご車体験など、たくさんの遊びのコーナーには、喜ぶ子どもたちの姿があふれていました。

シャクナゲの季節を御祓地区で楽しむ「内子自然浴ツアー（しゃくなげ祭り）」

「内子自然浴ツアー」（同実行委員会主催、上岡満栄会長）が4月21～24の4日間、御祓地区で開かれました。

「お大師めぐりツアー」「棚田しゃくなげまつり」のほか、コースが4つになって充実した「みそぎ探険ツアー」が催され、約100人が訪れました。参加者は1,000本のシャクナゲが咲き誇る会場で、うどんや棚田米のおにぎりを食べるなど、御祓地区の魅力を満喫していました。

きれいなシャクナゲの花が来場者をお出迎え

昭和20年頃の小田川の風景を再現 悠々と流れる筏が観客を魅力

「第26回川まつり・筏流し」（川登自治会主催、山本哲昭自治会長）が4月24日、川登地区で開かれました。

川ツツジやフジの咲く小田川を優雅に下る筏の姿は、昭和20年頃まで行われていた筏流しの風景を見事に再現していました。筏の乗船を体験した松山在住の親子は「時が止まったように、静かに流れていく感じが気持ちいい」とすがすがしい笑顔で話していました。

蓑とすげがさに身を包む筏師が巧みに筏を流す

南山自慢の山の幸を堪能「おんごく南山山菜まつり」

「おんごく南山山菜まつり」（南山自治会主催、源田幸生自治会長）が4月29日、南山自治会館で開かれました。山の幸が豊富な同地区の自慢の料理、山菜のおこわや天ぷらなどを目当てに、地区人口の5倍になる約350人の来場者でにぎわいました。源田会長は、「高齢者は多いけれど、みんなの気持ちは若い。これからもイベントを続けて、地域を盛り上げたい」と笑顔で話していました。

どれだけ取っても一皿100円の天ぷらが大人気

内子座の舞台から演じる楽しさを伝えよう 内子町文化協会内子支部「合同芸能発表会」

内子町文化協会内子支部（生口象亭支部長）の会員が日頃の練習の成果を披露する「合同芸能発表会」は5月15日、内子座で開かれました。22団体171人が出演。熟練の技や子どもたちのかわいらしい演技に、会場から大きな拍手が送られました。生口支部長は「楽しさは長生きにつながるので、芸能を通じて楽しい思い出を重ねてほしい。来年もぜひ来てください」と呼び掛けました。

初出演の「みゆう」。太鼓演奏に合わせて優美に踊る